



JAA通信

(Japan Autonomous Academy)

日本自治 ACADEMY 会報誌

Vol.7 2012年6月発行

(ホームページアドレス)

<http://www.japan-a-academy.jp/>

[発行]

NPO法人 日本自治ACADEMY

北海道下川町西町88番地2(株)谷組内

郵便番号 098-1205

Tel:01655-4-2595

Fax:01655-4-2596

E-mail:info@japan-a-academy.jp

Contents

P1 巻頭写真

「幼稚園児の津波避難訓練」(石狩市)

P2 日本自治 ACADEMY の活動について

谷 一之(日本自治ACADEMY理事長)

「活動も5年目を迎えて!」

P2 ミニセミナー開催概要

陳 昌洙 さん(北海道大学公共政策大学院)

「日韓地方自治体の交流を促進する
ための基盤づくり」

P6 フォーラム「アジアと北海道の つきあい方パートⅣ」講演要旨

徐 瑞湖 さん

(台北駐日経済文化代表処札幌分処)

「台湾と北海道の交流について」

P12 日本自治 ACADEMY 事業紹介

知って得する自治用語手帳の制作



幼稚園児の津波避難訓練(石狩市) 海に近い花川北陽幼稚園では、この冬の1月17日に、冬季の地震で大津波警報が出たことを想定した避難訓練が行われました。当日は、約120人の園児が訓練に参加し、多くの報道陣も訪れて、この取組を全国に報じました。(写真上:防寒具を着込み建物から避難先の小学校に向かう園児ら、写真下:滑りやすい雪道を小走りに駆ける園児) [写真は花川北陽幼稚園提供]

日本自治ACADEMYの活動について

谷 一 之

(NPO日本自治ACADEMY 理事長)



活動も5年目を迎えて！

私ども日本自治 ACADEMY の活動も、平成 19 年 5 月の設立以来、今年度で 5 年という節目の年を迎えることになりました。

これを機会として、さらに充実した普及事業の展開や人的なネットワーク、そして安定した収益事業を推進し、国内は元よりアジア地域において、地方自治や地域振興を志す若者はもちろんのこと、子どもたちの郷土愛を育むことのできる体制をつくって参りたいと思います。

さて、この 4 年間の活動を振り返ってみますと、「アジアと北海道のつきあい方フォーラム」では、これまで 4 回に渡って、アジア地域の関係者の方々、さらには専門家や道内留学生を招いての講演会とパネルディスカッションを開催して参りましたが、どのフォーラムでも会場が埋め尽くされ、関心の高さを伺えたところです。

また、平成 21 年 5 月にスタートした「議員力検定試験」については、昨年 11 月で 5 回目の開催となり、道内においても、少しずつ広がりを見せ始めたところでありまして、今年度は 8 月 19 日に第 6 回の検定試験を実施することが決定しております。

さらに、「北海道の子ども応援プロジェクト」や「でっかい北海道の創造プロジェクト」によるマップ普及事業においては、私どもの活動を理解頂ける多くの企業や団体に協賛を頂くと共

に、道民の方々にもご購入を頂いて、15 万部を超える制作と配布を行ったところです。

昨年 2 月においては、韓国への訪問に引き続いて、台湾を訪れ、政治に係わるシンクタンクや行政官庁の幹部の方々と親しく懇談を行って参りましたが、その成果も今年度の各地の事業計画の中で反映されようとしているものであります。

そして、これまで、このような事業を進めると共に、地方自治の在り方を再考しようとの機運が高まり、昨年夏に着手しておりました「知って得する自治用語手帳～財政編」の制作も完成を見て、この 4 月に発行をしたところでございます。

このように、4 年間の活動を通して、多くの方々と触れあうことができ、ACADEMY の理念の根幹である「地方自治を核としたアジア各国のネットワークづくり」の礎ができてつづることが確信できたところであります。

今後も、より具体的な事業を企画しながら、交流の輪を広げて参りたいと思いますので、皆様のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。



ミニセミナー開催概要

日本自治 ACADEMY では、2012 年 1 月 19 日、北海道大学公共政策大学院で教鞭をとられ、この 3 月に韓国に帰国された陳先生をお迎えして、札幌市内で、ミニセミナーを開催しました。参加者は、講師を含めて十数名。陳先生は、韓国で学生たちの教育指導はもちろんのこと、政治や行政に関わるシンクタンクを設立し、多くの官僚の方々に政策形

成のあり方についてご指導をされております。今回のセミナーでは、陳さんから、今後の両国の交流と連携のあり方について示唆に富んだお話を伺うことができ、大変意義深いセミナーとなりました。このセミナーの一端を皆様にご紹介します。

講話要旨

陳 昌洙 さん

(北海道大学公共政策大学院)

「日韓地方自治体の交流を促進するための基盤づくり」

はじめに

ご紹介いただきました陳でございます。よろしくお願いいたします。

日本自治 ACADEMY からお招きをいただきまして、こうして皆様に日韓関係のお話ができることを非常にうれしく思っております。私はアメリカで1年間勉強している時に、北大から誘いがありまして、去年8月から今年の2月の期限で、今、北大にきております。

私は、北大を含めて北海道について、いいイメージを持っていまして、本日はできるだけ日韓関係のために、北海道と韓国をつなげる役割を果たしていきたいという気持ちで、私のこれまでの経験をもとにお話をしたいと考えております。



【講話を始める陳先生（左端）と参加者の皆さん】

北海道の拠点づくりのためのネットワーク形成

日韓の交流を進めていくためには、まず地元
の拠点づくりが大事で、そのためのネットワー
クを作ることから始めないと、日韓交流はうま
くいきません。なぜかという、日韓の間では
韓流ブームが起きていて、非常に興味が高まっ
ているわけですが、それをつなげていくために
は、ある程度、組織と広報が必要だと思ってい
ります。

私がこの約10年取り組んできたことを紹介し
ますと、私は韓国で「火曜クラブ」というもの
を作って、日本大使館や日本の特派員、それと
韓国のマスコミ関係者、政府関係者などが集ま
って、月1回勉強会を開いているんです。それ
が11年間続いているわけなんですけど、私が北
大に来たということで、東京で関係者が集まり
ましようということで、「日本版火曜クラブ」を
東京で立ち上げました。

8月から始めたわけですが、実はその4回目の
会合を昨日東京のプレスセンターで開きました。
学者や、若手研究者、マスコミ、韓国大使館関
係者など20人くらい参加されて、北朝鮮問題に
ついて、金正日総書記死去の後の体制がどうな
るかということを議論しました。

韓国の火曜クラブは月1回の集まりがありま
すが、この火曜クラブは日本大使館の参事官と
私が一緒になって、率直な意見交換の場を作り
ましようということで火曜日に会おうというこ
とで始まったわけなんです。彼は後に、日本
に戻って北東アジア局の局長になりましたが、
最近、彼を北大に呼んで学生と議論する場を作
りました。

ネットワークの中には、政府、自治体、マス
コミ、それと学者が必要ですね。その人たちが
集まって、十数名ぐらいがいいですね。20名以
上になると議論する場がなくなって結束力も高
まらないですね。まずここで日韓関係に関心
のある方を集めてその中で北海道新聞などマス
コミの方々を含めてネットワークを作ってそれ
がうまくできれば何をすればいいかという、1回

の集まりのたびに、議論した内容をイシュー化する努力をすることです。そのために、月 1 回新聞の誌面を借りて、ここで議論したことを新聞に発表することもひとつの方法だと思います。

また、韓国の火曜クラブのメンバーから、北東アジア財団の理事長や、日韓関係の歴史共同委員会の議員になった方がいるほか、各メンバーは様々なところで現在活躍しておりますので、メンバーの人選も重要かと思います。日韓関係に興味を持っている人を選んで、その方をゲストスピーカーとして呼んで、そしてメンバーに加わってもらって一緒に活動していくと、日韓関係に情熱のある人が残っていくと思います。

そして日本では勉強会に自腹でよく集まるんですけど、韓国ではそんなことはなくて、私もほかの会議にも参加しているんですけど、そこには大体政府が支援してくれたり、企業が支援してくれたりしているのでお金を払うことはないんです。韓国の火曜クラブでは自腹という原則を守って、お金を出したくないという人は来ないわけです。最近困っているのは若手の学者がいなくなっていることで、なぜかという彼らはネットワークに入ることは得になるんですけど、お金のことで来ないんですね。韓国の学者はケチなんです（笑）。それで私に日本の大使館や韓国の政府から支援してあげるとい話はあるんですが断っています。そういう覚悟と情熱でやらないと駄目なんですね。そのようなわけで、ゲストスピーカーを呼ぶような時だけは、日本の大使館が配慮してくれて久保田の千寿などを差し入れてくれたりしています（笑）。

また、火曜クラブでは後任者を推薦する時に、私が必ずその人と会って、インタビューをします。インタビューをして、そして日本側の評判を聞いて入れるかどうかを決めます。

要は、北海道の拠点づくりをするためには、マスコミや学者、自治体などの関係者を入れて、いろんな人が手を組んでやることと、それをイシュー化、争点化することが重要で、そのためにはどうしても新聞の力が必要です。新聞で北

海道の中で日韓関係のためにこういう話があったということを伝えなければ宣伝になりません。このようなネットワークの形成が重要だと思っております。

大学における公務員研修の拡充

二番目は、大学がこの北海道の中で、どういう役割を果たすかというビジョンが見えてこないんですね。競争が厳しいですから、大学や研究所などは10年間ぐらいの計画を作って目標をたててやっていくことが重要です。まず、私は大学における自治体の公務員の研修を広げていくことが重要だと思っております。私が所属している韓国の世宗研究所では外部の先生方と組んで、高級公務員 100 人ぐらいの研修を行っております。その高級公務員というのは課長を経て今度局長になる人たちで、大体 40 代後半から 50 代前半の方です。中央の公務員のほかに、自治体の公務員も含めての 100 人ですが、その人たちが、1 年間、研究所に来て、国際政治や国際経済などについて勉強しております。民間では唯一の公務員研修を行う研究所です。

また、韓国では、外交分野では公務員試験をなくしてロースクールのように、2 年間大学に入って、そこで勉強してもらって、その半分以上を選んで外交官にするという形にしようとしております。外交官というのはただ成績が良くて頭がいいことでは外交官になれるはずはないですね。人格も含めて教養の部分が必要なんです。ですから、韓国では改革を行い徐々に公務員の試験をなくして、ロースクールのように大学の中で訓練してその中から公務員にしようとしているわけです。

韓国よりも日本の公務員の方が、勉強もよくしているし、試験後、公務員が国のために働いているという自覚もあります。韓国では大統領制ということもあって、官僚は実行部隊にとどまっていますが、日本の官僚は自分で考えて政策を立案し、それを国会が承認するという形になっているわけで、日本は官僚がとても重要な国なんです。

このようなことから、北大が中心となり、1週間集中コースなど短期のプログラムや、1ヶ月、6ヶ月などバラエティに富んだコースを作り、そして1年間、2年間と伸ばしていった、公務員研修を活性化していく必要があります。

研修を通した日韓の交流の活性化

このように、大学での公務員研修を通して、人材の育成を図っていくと、なぜネットワークにつながっていくかというと、この研修を受けた人たちと韓国の世宗研究所や中国の北京大学などと交流を進めていくといいわけです。そして、韓国などアジア諸国の自治体と北海道の地方自治体の間においても1週間とか1ヶ月間とかの期間で交流を図っていけばいいと思います。

政策大学院大学というのが東京にあるんですけど、私は1年間ここにいまして、その時にお願いして、韓国の公務員50人くらいを1週間そこで研修してもらいました。これを実施するには多額の費用がかかり、来日する旅費などは韓国の研究所の方でもちましたが、講師謝金や研修費用の一部などについては政策大学院大学が負担してくれました。政策大学院大学は韓国などアジアのことを考えてくれていて、一般の学生が半数、公務員の学生が半数いて、韓国からも授業料を払って、毎年5人ほどの学生が来ています。

政策大学院大学においては公務員研修を通して交流が図られることによって、大学がネットワークの拠点として機能しているわけです。ですから、政策大学院大学で研修を受けているアジアの人たちの何人かを北大で受け入れて、彼らが活躍する場を作ることも必要ではないかと考えております。

まず北海道の中のネットワークを作って、そして大学は別の形の公務員のネットワークを作っていくことです。そうなってくると、韓国、日本、中国が研修プログラムの開発など一緒にやっていくことができるんですね。大学は大学、自治体は自治体、市民運動は市民運動と別々にやっていては非効率で、大学や自治体、各種団

体がセットになって、役割分担をとる形を最初から考えていく方がいいんだと思います。

北海道ブランドなど成功事例の広報

それで、そのことがある程度始まりますと、三番目には何を集中的にやらなければならないかということなんですが、まず、北海道の売り物、モデルケース、北海道には世界の中でこういうブランドがあるとか農業のブランドとか自治体のブランドとか、成功の事例を作らなければなりません。そして、できあがったネットワークを使ってこの成功モデルを世界に向けて売り出すということをやらなければならない。

韓国の自治体は日本と同じく自治体のリーダーを選挙で選ぶんですけど、そのリーダーは、選挙で勝つために、世界の自治体を真似して自分の自治体を作ろうとします。北海道の中で成功モデルを作って、宣伝広報をして、韓国の人たちが来たときにこういうモデルがあるんですよと売り出します。そうすると、韓国の自治体も北海道に来て学びたいということで結構来るんだと思います。その時に自然と交流が始まるものと思います。

北海道といえば、食べ物がおいしい、いい自然があるということですけど、韓国の人が北海道に来ると、普通の人は札幌へ来て、そしてどこかの温泉に入って帰るわけです。私も自然環境がいいといってもどこにあるのかいつも疑問でした。私はこれまで16回札幌へ来てもそれがどこにあるかわからなかった。最近知床に行きましたが、そこにはカレンダーにある風景がありました。しかし、ほとんどの韓国人はそこに行かないんです。

ですから、韓国の自治体には、北海道へ行って視察するというイメージはないんです。北海道へ行くといったら、観光に行くのかと言われるぐらいで、モデルケースや売り物がないんですね。それをこれまでお話ししてきたようなネットワークを使って発信することが重要になってくるんだと思います。

結局は北海道のブランドの価値をどういう風

に高めるか、常に工夫していかなければならないということなんです。北海道の自治体の成功例はあまり聞いたことがありません。私は青森県の六戸町によく行きます。ここは、日本で初めて電子投票を実施したところです。新聞で知って見に行きまして、町長とも知り合いになりました。年に 1 回は必ず行って町長とお話をします。

きょうは、私のこれまでの経験をお伝える中から日韓関係の交流にお役立てできることがあればということで、話を進めてきました。熱心にお聞きいただきどうもありがとうございます。



【陳先生（後列左から 3 人目）を囲んでの記念撮影】

フォーラム「アジアと北海道の つきあい方パートⅣ」講演要旨

日本自治 ACADEMY とグリーンシード21は、アジア地域からの来道が著しい観光事業や、物流などのビジネスのきっかけはもちろんのこと、北海道をステージとして、地方自治を学ぶことのできる場を創造し、さらなる交流の機会を図っていくことを目的として、2008 年から毎年、フォーラム『アジアと北海道のつきあい方』を開催しており、今回で 4 度目

となります。これまでのフォーラムでは、北海道で学んでいるアジア各国の留学生、ビジネスを通してアジアで活躍している企業人、さらに、アジアの文化や歴史に造詣の深い大学教授やマスメディアの方々から実体験に基づくお話を伺いました。今回のパートⅣにつきましては、平成 24 年 2 月 16 日に札幌市内で開催し、台北駐日経済文化代表処札幌分処の徐処長から、日本と台湾の歴史的な関係や相互の観光事情、そして台湾と北海道の今後の交流のあり方などについてご講演いただきました。

講演要旨

徐 瑞 湖 さん

（台北駐日経済文化代表処札幌分処 処長）

Hsu, Juei-hu 台北師範専科学校を卒業後、教鞭をとりながら、日本の政治や文化などの研究を行い、1986 年からは外交部〈外務省〉に勤務。その間、東京でも 10 年間、外交業務に従事。2009 年から札幌分処処長となり、台湾と北海道の一層の交流促進を図っている。

「台湾と北海道の交流について」

皆さんこんばんは。きょうはお招きいただきありがとうございます。ご承知のとおり、台湾と日本は非常に密接な関係がありまして、実質的な経済交流をこれまでずっと盛んに行ってきました。

日本との関係を重視

2008 年に、馬英九さんが政権を取った後、彼は日本との関係を重視するということを証明するため、最初にやったことは札幌事務所の設立です。彼は外省人の 2 世です。蒋介石が戦争に負けて、中国大陆から 200 万人くらいの軍人と公民を連れて台湾に来ましたが外省人といいます。彼はハーバード大学で博士号を取得してまして、アメリカ留学時、尖閣列島、魚釣島が

あるところですが、ここを護持する責任者でした。これに関する論文も書いたんです。



【約 80 分に渡って講演をいただいた徐処長】

ですから、彼が総統になる前、台北市長の時に 2 回日本を訪問していますが、日本のマスメディアから、「あなたは反日、親中派ですか」というふうにいわれて、「いいえ、親日派ですよ」と答えていました。それで 2009 年 12 月に、北海道で札幌事務所を設立します。これは、台湾の総領事館にあたる事務所なんですね。これを作るということは日本との関係がいいということ、日本との関係を重視するということです。

また、彼は総統になって、台北市内の松山空港と羽田空港の航空便の就航に取組みました。これは昔、台湾は羽田を利用したんですよ。中国大陆は成田で別々です。後にお互いに緩和して、台湾も成田へ行きましたが、最近では羽田からの海外便の方が便利だということでまた羽田と松山空港、これを連結して、2010 年 3 月開通したんですね。この年の 4 月には、東京の大使館にあたるところで、台湾文化センターを設立しました。

去年の 3 月 11 日に震災がありまして、台湾からたくさんの義援金を寄贈したということで、衆議院の衛藤副議長など 8 名が、5 月に断交後はじめて、台湾を訪問しました。これは私たちにとってはすごく重要なことです。これまでいちばん偉い政治家は副大臣でしたので、衆議院の副議長訪問ははじめてで、日本が台湾を重視しているということです。

また、去年の 3 月には、衆議院で法律が通過しまして、台湾の故宫博物院の宝物を日本へ持って来て、展示することが決まりました。今はその事務手続きの最中ですが、台湾の故宫には中国五千年の文化の中で優れているものがたくさんあるんです。これまで、フランス、ドイツ、アメリカで展示したことがあるんですが、これを日本へ持ってくる予定です。

さらに、去年の 11 月 22 日、投資貿易協定を調印しました。これはビジネスの面からいうと、すごく大事な協定で、これによってお互いの投資の促進などの面で大変便利になりました。

11 月は、もう一つあります。オープンスカイの調印もしまして、静岡、鹿児島に新しい路線をつくるんですけど、北海道には、この 6 月か週 7 便就航する予定です。函館 2 便、新千歳 2 便、旭川、帯広、釧路各 1 便です。そうすると、毎日台湾から北海道に来る便があることになり、台湾と北海道との交流がこれからどんどん促進されていくと思います。

台湾の国民は経済優先、安定重視を選択

今年の 1 月 14 日の総統選挙で馬さんが再選されました。台湾の国民は経済優先、安定重視、これを選択しました。民進党の方は、台湾のアイデンティティー、台湾の意識、台湾のコンセンサスを重視するということです。ですから、馬さんが当選すると、大陸との経済関係は今までどおりやっていけます。2010 年、台湾の成長率は 9.8% です。中国大陆より成長しているんですね。だから経済を優先するというのは国民の選択ですね。

もうひとつは安定を選択するんですね。馬総統が当選すると、大陸との政治や軍事の関係は安定します。しかし、蔡さんが当選されると、蔡さんは統一についてあまり積極的じゃない、現状維持、あるいは台湾独立の方向の政策ですので、安定を選択したのが今回の選挙なんです。

投票率は 74% です。日本の国政選挙ではこんなに高い投票率はないですよ（笑）。有権者数は 1,345 万人、台湾全体の人口は 2,300 万人です。

馬さんは 689 万票、蔡さんは 609 万票、80 万票近くの差でした。今回、国会議員の選挙も同時に行われまして、議席数は 113 議席なんですが、国民党は 64 議席を獲得しました。民進党は 40 議席、民進党寄りの親民党は 3 議席です。

国民党は過半数を取りましたので、政権運営はスムーズにいくかということとそうでもありません。前回の選挙では民進党は 30 議席もないのに、国会では激しい対応をし、法案はそう簡単に通さませんでした。ですから、議席が少ないということは問題ではなく、問題は行動力です。議会の中で激しく行動する、そういう力は無視できません。民進党は、親民党とあわせて 43 議席ですので、これからの国会運営はすごく難しいものと私は思っています。



【台湾に関心の高い方が多数参加された会場の様子】

台湾と日本の密接な関係

台湾と日本の密接な関係は、まず経済関係ですね。台湾は日本にとってはすごく重要な経済環境を有する地域であり、この 2011 年ですね、対日間の貿易額は 651 億ドルですね。前年の 2010 年は 692 億ドルです。日本から台湾への輸出額は 522 億ドル、台湾から日本への輸入額は 182 億ドルでして、台湾の貿易赤字額は 315 億ドルです。台湾は大陸へたくさん輸出しており、台湾の貿易額の 40% ぐらいを占めております。台湾と大陸の貿易額は年間の黒字が 700 億ドルですので、その半分は日本に差し上げております（笑）。

この数字を見ても、大陸との経済関係が非常

に密接であることがわかんと思います。日本も中国大陆への輸出額は今、1 位なったんですね。ですからこういうような状況はこれから続いていくと私たちは思っています。台湾からみると、日本は第 2 位の貿易相手、日本からみると、台湾は第 4 位の貿易相手です。これはお互いの経済の密接さを表している数字だと思います。

経済のほかには、台湾にとって、観光交流と自治体交流が対日関係の重要な課題だと思っています。観光については、2011 年は日本から台湾への訪問客数は約 130 万人で、これは史上最高の数値です。これは多分、3.11 の後、台湾は日本に対してすごく親しいという感じをもって台湾に遊びに行こうということで、こういう数字が出てきたんですね。逆に、2011 年の台湾から日本への訪問客数は約 113 万人です。その前年は約 131 万人ですから、これは 3.11 の影響で 3 月、4 月と訪問する人がいなかったため、こういう数字になったんですね。外国から台湾への訪問客数は約 608 万人です。台湾から外国への訪問客数は約 958 万人です。主に、大陸、香港で約 500 万人ぐらいです。

去年、3.11 の影響で外国から日本へ来る観光客は約 629 万人となりました。台湾とほぼ同じですよ。これでは、日本の観光庁、各自治体の観光担当者はもっとがんばらなければならないですよ（笑）。震災前でも約 880 万人です。台湾は北海道の 45% ぐらいの面積ですよ。日本のように資源があり、四季がはっきりしている、雪もある、桜もある、紅葉もある、800 万人じゃ少ないですね。もっと工夫する必要があります。

自治体交流については、2010 年までで、台湾の自治体は日本の 18 の地方自治体と姉妹都市あるいは友好都市の協定を締結しています。今年の 10 月には津別町と台湾中西部にある彰化県二水郷が友好都市の調印をする予定です。

交流協会は日本の駐台湾の大使館にあたるものですが、そのアンケート調査によると、台湾人が一番好きな国は日本なんです。52% です。50% を超えるというのはこれは 2 番目の国のこと

を考えるとたいした数字です。2 番目はアメリカで 8%です。うちの大使館にあたる駐日経済文化代表処も 2011 年 5 月に同じように世論調査を実施していますが、日本人の 70%近くが台湾に対して親近感を感じていらっしゃいました。そして 91%は台湾と日本の関係は良好であるという認識をもっていらっしゃるんですね。だから、台湾と日本は友好的で信頼できる関係だと私たちは思っております。

北海道と台湾の関係は戦前から非常に密接

次は北海道との交流につきまして、これから皆さんに報告したいことがあります。実は北海道と台湾との関係はものすごく密接なんです。戦前、台湾は日本の土地でした。ですから、李登輝さんは「私は幼いときは日本人だった」と言っているんです。実際、彼は高校まで日本時代で、そして大学も京都大学に行きました。もちろん私の両親の世代、みなそうですよ。学校の先生はほとんど熊本など九州から来る人が多かったんですね。先生たちは、台湾の子どもたちをかわいがり、いろいろと教えてくれました。日本時代、台湾に一番貢献したのは教育なんです。これは台湾の基礎です。教育が一番大事です。二番目はインフラです。インフラも日本の一部として取り扱われ、整備されました。

北海道は開拓地なんですけど、当時、日清戦争で清の政府から譲られた後、台湾も新しい開拓地として、日本政府は経営しているわけです。台湾と北海道は南と北の開拓地です。台湾は一番先に農業から始まるんですね。農業が強いのは札幌農学校ですよ。札幌農学校のOBは大勢台湾に来て、いろんな研究、貢献をされたんですね。

台湾の製糖業、サトウキビですけど、その基礎を築いたのは、札幌農学校二期生の新渡戸稲造さんです。台湾の高山植物研究の第一人者は 1900 年卒業の川上瀧彌さんです。今、台湾の植物の十数種は川上博士の名前をつけています。昆虫研究の第一人者は 1895 年卒業の松村松年さんです。そして、松村松年さんの教え子は函館

出身の素木得一さん。彼は 1905 年の卒業生で、台湾で一番有名な「寛尾鳳蝶」という蝶々ですが、すごく綺麗な蝶々で、台湾の国蝶です。この蝶の存在を 1934 年の国際会議で発表しました。また、台湾の在来米は味が良くなかったのも、それを改良して「蓬莱米」を作ったのは、1911 年卒業の磯永吉さんです。彼は蓬莱米の父ということで台湾では讃えられています。彼が台湾を去った後でも農民は作った蓬莱米を毎年日本へ送って彼に感謝してたんですね。

こういう関係もあります。治水関係ですけど、台南の近くに烏山頭ダムというのがあります。これは八田與一さんという石川県人が作ったダムです。このダムは、1923 年頃にできたんですけど、この 90 年前に作ったダムはセメントを一切使っていません。今でも現役です。素晴らしいですね。烏山頭ダムがあるところに嘉南平原という広い平らな土地があって、今は穀倉となっていますが、ここは 2 回が米で、1 回は野菜の三毛作です。3 回お米を作っても大丈夫です。八田與一さんは台南の人にとにかく尊敬されている方ですね。この八田さんの東大の恩師は小樽の防波堤を作った広井勇さんです。彼も札幌農学校の二期生ですよ。新渡戸稲造の同級生です。札幌農学校にはこういう絆もあったんですね。

日本時代、帝国大学は台湾にもあったんですね。台北帝国大学です。この大学では、台湾の出身者が農学、経済、医学、政治、法律などを勉強しました。中でも、この大学の農学部の先生たちは、少ない時でも三分の一以上の先生が札幌農学校のOBでした。多いときは半分以上を占めていました。このように台湾と北海道の関係については、札幌農学校との大きな歴史の絆があったということをもっと皆さんに報告します。

台湾と北海道の共通点と補完性

台湾と北海道には幾つかの共通点があります。一つには、島であるということ、台湾は北海道の 45%の面積です。台湾は 36,000 km²、北海道は 78,000 km²。北方領土を加えらるともっとあります。

また、同じ開拓地であるということ。それから、農業、漁業が盛んであるということ、そして、北海道にはアイヌ民族がいて、台湾にも原住民がいるということです。台湾には14族が住んでいます。40万人ぐらいです。彼らは言葉が全然違うんです。中国語は通じません。彼らの共通の言葉は日本語なんです。日本語はみな通じます。

実は、白糠町長は、アイヌ民族と台湾の少数民族の交流に非常に熱心で、2009年に、台東に住んでいるブユマ族と交流したんですよ。蕭萬長副総統がよく似ていると発言したこともあって、去年（2010年）、台湾北部にある烏来のタイヤル族との交流も実現しました。この時はびっくりしましたね。タイヤル族とアイヌは、入れ墨も一緒、服装も一緒、また口琴を奏でるところも一緒です。ですから、アイヌ協会とタイヤル族はこれから友好の調印をする予定となっております。明日も北海道のテレビ局（HTB）の方が札幌分処に、白糠のアイヌと台湾の原住民のこれからの交流のスケジュールについて、相談をしに来ることになっています。

台湾の国会議員は113名ですが、そのうち原住民の枠が何名かご存知ですか。6名です。優遇されてるんですよ。2,300万人で113名、40万人で6名ですから。原住民の委員会もありますし、原住民が大臣もやっています。

また、地理的には台湾は南、北海道は北ですね。気候は全然違います。ですから、一番いいのは、北海道が冬の際は皆さん台湾に遊びに来てください。台湾は夏の暑い時に北海道に遊びにいくんです。これは、地理的にも、気候的にも補完的な関係といえますね。

人口については、台湾は密度が高すぎますね。世界で2番目です。2,300万人で住めるところは40%もないですよ。山地が60%。3,000メートル級の山が120以上もあります。一番高い山は3,952メートルです。昔の新高山ですね。「ニイカタヤマノボレ」、あれは台湾の玉山ですよ。ですから、人口的な補完もあるんですよ。夏は台湾から100万人く

らい北海道一周に来て、冬は北海道から50万人くらい台湾一周に行くとお互いに補完ができますね。

物産的なものも同じなんですけど、北海道の食材はおいしいですよ。特に、越冬野菜、越冬キャベツ。皆さんは知らないと思いますが、台湾には高山キャベツがあるんですよ。高い山でキャベツを作るとおいしいんですよ。寒いところで作ったキャベツは甘みがあるんです。しかし、農薬をまくんですよ。その農薬はダムに流れていくんですよ。飲み水には農薬が入ってくるんです。これは危ないですね。ですから、台湾は高山キャベツを作らないで北海道の越冬キャベツを買う。そして北海道はマンゴーを作る必要がないでしょ。最近、北海道でマンゴーを作ってますが、1個8,000円ぐらいの値段がついています。台湾のマンゴーだと100個買えますね（笑）。ですから、物産的な補完もあるんですね。

ノービザもライセンス（運転免許）の相互承認も初めて発生したのは北海道なんです。ライセンスの相互承認、これは釧路で会議をやった時に、釧路の方から提案があって、中央政府もやっとこれを認めまして、ライセンスの相互承認に至ったんです。それがなぜ必要かというと、北海道では特にレンタカー、台湾のライセンスが使えないとレンタカーが使用できませんので不便でした。また、ノービザについては、台湾からの観光客が多いということもあり、日本に来てても悪いことしないから、ノービザは出してもいいということで、北海道からそういう提言を行って、やっとノービザができましたね。

台湾の人たちの北海道のイメージ

去年、初めてオホーツクなどでとれる生のシャケを台湾の大きなスーパーに200グラム試験的に送りまして、即日完売となりました。それで、今度は、サンマの生を釧路から、これも試験的に送りまして成功したんですが、でも、北海道のブランドは高いですよ。

私は、7～8年前、東京勤務を終えて、台湾に

帰ったんですね。帰国後、歓迎会ということで、後輩と日本の方が経営する居酒屋へ行った際、サンマ焼 150 円、日本円で 400 円ぐらいです。ほかに、北海道サンマ焼 500 円、1,300 円ぐらいですよ。台湾の一流ホテルのビュッフェが 750 円ぐらいですから、北海道のサンマ焼で台湾の一流ホテルの夜のビュッフェが食べられるんですよ（笑）。でもその日食べたサンマ焼はとてもおいしかった。北海道は、農産物、海産物の台湾への輸出をこれからどんどんやってもいいんですよ。

台湾の人たちの北海道のイメージは、「ブランド北海道」ですよ。お米もそうです。沼田町からは年間 50 トンぐらい台湾へ輸出しています。滝川からも輸出しています。長イモが一番多くて、去年は 820 トンですね。しかし 1 位はアメリカに取られたんですよ。アメリカは 828 トンです。なぜアメリカで長イモがよく作られるかというと華人が多いからです。長イモは華人にとって、漢方薬のようなもので、スープを作ったり、煮たり、炒めたりして使います。

海外では、函館産とか沼田産とかいいません。北海道産ということで世界共通です。北海道に来た台湾の観光客に、何が一番印象深いかを聞くと、「カニの食べ放題」と言います（笑）。台湾にはタラバガニはありません。今は、生のカニを 2,000 円、1 週間か 2 週間に 1 回、空輸で送っていますが、ものすごく高いですよ。ですから、北海道に来て、カニ食べ放題で旅費を回収できるほどです。

台湾の人たちにとって、日本が一番好きな国です。そして一番行きたいところは北海道、二番目は多分、立山、黒部ですよ。なぜかというと、台湾では高い山にたまにしか雪が降りません。ふつうに住んでいるところは雪が降るということは全くない。北海道の飛行機から見る真っ白な大地、その上で牛が動いているのなんかはものすごく珍しい光景なんですね。自然の美しさ、また、花の美しさ、美瑛、富良野、台湾の人たちはラベンダーが好きですね。また北海

道は温泉天国でしょ。植物由来のモール温泉は世界に 2 か所しかないんですよ。ドイツと北海道十勝。広々とした大地、広大な牧場、まっすぐな道、酪農、流氷、世界遺産の知床、釧路湿原、阿寒湖のマリモ、丹頂鶴など素晴らしいものがたくさんありますね。

私たちは、この北海道に事務所ができてから、親善協会を 5 か所作ったんですね。津別は事務所ができる前に作ったんです。これは台湾を訪問するために作った親善協会ですね。私たちが事務所を作った後に設立されたのは、旭川で、これは 2010 年、北見、札幌、釧路は 2011 年で、この 3 月には小樽で設立される予定です。親善協会を作ると、お互いに定期的に交流するんです。親善協会が台湾を訪問する際には、私たちはいろんなところでアレンジすることができるんですね。たとえば、釧路では、この 2 月下旬に台湾へ行くんですよ。彼らは、台北の動物園に寄贈した丹頂鶴を見にいくんです。それで、その場で丹頂鶴の絵葉書を配る、また、台湾の外務省側では一席もうける、こういうことができます。そして、台湾から来るお客さんに対しては親善協会の方々は接待や交流をしてくれる。こういうように定期的に交流できるということで、小樽の次には、まだ決まっておりませんが、多分、登別や函館で設立が予定されているという話も聞いております。

交流を進めるには信頼関係の醸成が大事

2010 年、台湾から北海道には 159,000 人、北海道から台湾には 18,000 人。2011 年、これは震災の影響で、台湾から北海道には前年と比べて 11%減の 141,000 人、北海道から台湾には 36%増の 24,000 人（北海道からの直行便のみの数字で羽田や成田から台湾に行く分は含まれていない）。日本全体では 2011 年の外国人観光客の減少をみると、韓国からは 32%減、中国大陸からは 28%減、台湾は 18%減ですが、ただ北海道だけは 11%減と一番減少が少ない地域なんですね。

去年（2010 年）の 12 月からこの 2 月、この期間、増便してますね。旭川ですけど 20 便のチャ

ーター便が来ています。これは中華スキー協会ですね。以前は長野によくスキーのツアー客を連れていったんですけど、去年は秋田、そして今年は富良野です。富良野プリンスホテルの方がとても喜んでいましたが、台湾のスキー客が6,000人くらい宿泊しました。

こういう観光の数字がありますが、これから、地方自治体や、議員、また、青少年や、ライオンズ、ロータリー、そして、原住民、文化芸術、大学、スポーツなど幅広い分野でどんどん交流を進めていきたいですね。

これらの交流を進めていくためには、やはりお互いの信頼関係の醸成が一番大事ですね。これから大陸やアジアの舞台でお互いに活躍していかなければなりません。例えば、台湾で一番大きなIT企業の鴻海精密。ここは、日立やシャープと協力しています。工作機械でいえばファナックと協力関係にあります。台湾と大陸は経済協定を結んでいて、工作機械の大陸への輸出は関税がゼロですね。鴻海精密、この会社の大陸における従業員数は100万人ですよ。一つの工場で40万人ぐらい従業員がいる大きな会社ですね。こういう協力関係、信頼関係があると、これは有意義な結果につながっていくのではないかと考えております。

以上で私からの報告を終わらせていただきます。きょうはお話をお聞きいただき、どうもありがとうございました。

日本自治ACADEMY事業紹介

知って得する自治用語手帳の制作

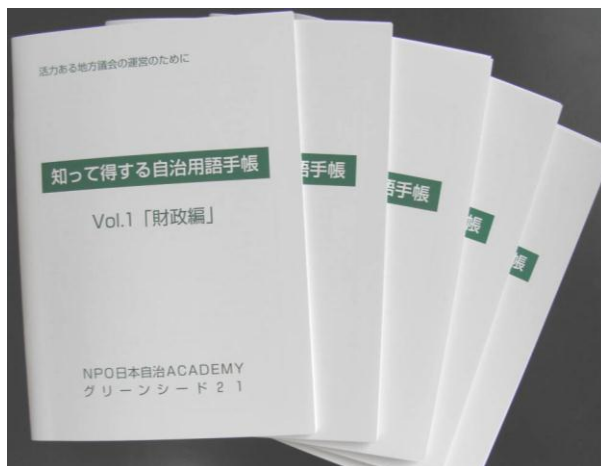
日本自治 ACADEMY とグリーンシード 21 では、昨年（2011 年）来、知って得する自治用語手帳（財政編）の制作に携わってきましたが、この4月1日に完成したところです。

内容については、全36ページで「第1部／予

算・決算」、「第2部／税・地方交付税・地方債」に分類し、44項目について詳細に説明を加えています。A6版のはがきサイズです。議会議員、行政関係者の方々などに幅広くご活用いただければと考えております。

ご希望の方は、5冊1,000円（単価：1冊200円）から受付をしておりますので、次のメールアドレスにお申込みください（送料は別負担となります）。

e-mail:info@japan-a-academy.jp



【編集後記】 暖かな陽射しに誘われるように、北の大地に花々が一斉に咲きほころび始めました。まあくしていた背中を思い切り伸ばしてみると新緑の風を感じ、身も心も明るくなりました。◆しかし、季節が巡っても2011、3、11の大震災を私達は決して忘れてはなりません。今回のフリーペーパーの表紙には石狩市の幼稚園児の津波避難訓練に取り組む写真を掲載させていただきました。◆本文につきましては、NPO 日本自治アカデミーを立ち上げて5年目を迎えた理事長の今後の抱負と、1月に開催したミニセミナー、2月のフォーラム「アジアと北海道のつきあい方Ⅳ」の講演要旨を掲載しました。韓国の陳先生からは北海道の人材育成への具体的な提言をいただき、また、台湾の徐処長は北海道と台湾との交流を進めるには信頼関係の醸成が大切であるとお話して下さいました。◆お二人の先生方には重要なアドバイスをいただきましたことを心からお礼申し上げますとともに、具体的な取り組みに繋げていかなければとの思いを強くしたところです。新年度は新たな出会いに恵まれることを楽しみに更なる充実した事業を展開していきたいと思っています。（編集責任者：副理事長 角井）